



犬・笑・暮だより vol.22

室内や庭に、犬にとって危険な植物があります



暮らしに潤いや安らぎを与えてくれる植物。でも、なかには犬が中毒を起こしてしまう植物もあります。室内の観葉植物や庭に植えられている植物、散歩の途中に出会う植物など、どんな植物が危険なのか、ぜひ、知っておきましょう。

●室内でよく見かける植物

クリスマスらしい雰囲気を出してくれるポインセチアも、犬が口にすると危険な植物のひとつ。有毒部分は、葉や莖。嘔吐・下痢・皮膚炎などの中毒症状を引き起こすことがあります。また、この時期によく見かけるシクラメンも、犬には危険な植物です。その他に、室内によく置いてあるアイビー、ポトス、カラジウム、セロームなども中毒症状を起こすことがありますので、犬が口にしないような場所へ移動しておいたほうが安全です。

●庭や道端でよく見かける植物

庭で見かける植物のなかにも危険なものがあります。庭木ではイチイ、ナンテン、ジンチョウゲなど。誰もがよく知っている花、チューリップ、スイセン、ユリ、スズラン、ヒアシンズ、アジサイ、アサガオ、菊、ヒガンバナなども犬にとっては危険。名前をあげればきりがありません。

犬は本能で危険なものを回避すると思われがちですが、必ずしもそうとは限りません。不慮の事故を招かないためにも、飼い主さんが注意してあげたいものです。庭やベランダなども、犬が口にしやすい場所に危険な植物は置かないようにしましょう。また、道端の草花は食べないように、拾い食いなどはしないように教えておくことも大切です。

犬に危険な植物はかなり多くあります。ただ、個体差もあり、有害となるレベルがはっきりしていないものも多いようです。有害な植物に分類されているもののなかにも、少量なら健康にいいものもあります。とはいえ、植物が引き起こす中毒症状のなかには死に至るような重大なケースもありますので、注意するにこしたことはありません。

《犬に危険な植物》

●シクラメン

愛犬が口にすると、胃腸炎や痙攣、神経マヒの症状が現れることがあるので要注意

●アイビー

丈夫で育てやすいので、屋内外で観賞用に重宝される植物。しかし、葉や果実には毒性があり、誤って食べてしまうと、口が渇いたり、ヨダレが出たりという症状が出る。皮膚への刺激も高いといわれている

●ナンテン

庭木として広く親しまれ、漢方では鎮咳薬となるナンテン。その実を愛犬が食べると、神経マヒを起こす可能性があるため、植える場所には要注意

●イチイ

中枢神経に重大な影響をもたらす。震え、失調、呼吸困難、胃腸炎、心不全などを起こすことも

●ジンチョウゲ

強い芳香を放ち、人気の樹木だが、愛犬にとっては花や葉が有毒となる。血便や、ヨダレ、嘔吐の症状が現れる場合もある

●チューリップ

特に球根の部分に毒性が高い。胃腸炎、ヨダレ、食欲不振、ケイレン、心臓異常

●スイセン

早春を彩る可憐な草花だが、球根に毒が含まれる。吐き気や血圧低下、胃腸炎

●ユリ

毒性が高く少量でも腎臓に重大な影響を与える。ユリ科の植物には球根に毒を含むものが多い



愛犬に関するお住まい・お庭のお悩みは **庭遊館** にお気軽にご相談下さい



携帯サイトはコチラ!!

庭園工事・外構工事・管理・設計施工

株式会社 庭遊館

〒504-0945 各務原市那加日新町6-65

TEL 058-216-3110

FAX 058-216-3113

<http://www.teiyukan.jp>

